

令和7年度 学校自己評価書(様式)

【全体を通して】:数字(%)の良し悪しを評価するのは慎重に分析、対策を講じてほしい。児童数が毎年減少している中で、数人の児童、数クラスの動向で%が大きく数字が変動する。それを基に全体対策を講じるのは注意(慎重に対応)が必要。そのようなスタンスで、個別対策、クラス対策、学年対策、全体対策を講じるのが必要と考える。

Table with 3 columns: Evaluation Item (評価項目), Results and Issues (成果と課題), and School Relationship Evaluation and Future Improvements (学校関係者評価と今後の改善点). The table is divided into two main sections: 'Academic Improvement x ICT Utilization' (学力向上 x ICT活用) and 'Long-term Absence Countermeasures' (長期欠席対策). The first section covers various subjects like math, reading, and ICT, while the second section focuses on student support, including counseling and language education. Each row details specific goals, current status, and future plans.

学力向上 x ICT活用

長期欠席対策

鈴鹿市立若松小学校		NO. 2																					
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	成果と課題	学校関係者評価と今後の改善点																				
非認知能力育成	<p>豊かな心と健やかな体を育成する学校づくり</p> <p>R6年度末の改善点案</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後も職員から児童に対して肯定的な声かけを行う。 児童会と連携した取組を継続し、職員も率先してあいさつを行う。 <p>① 自己肯定感と社会性、やり抜く力、自制心の育成 【研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> 現状把握 非認知能力アンケートの各学期の実施 取り組んだ時の感想の交流や校内掲示、お便りでの広報を通じて、取組に見られたお互いのよさを認め合う機会を大切に、自分にも良いところがあると思える体験を重ねさせる。 ポイントを絞った全職員による指導 やりぬく力・「やりとげる」経験の意識化 授業の中のふりかえり + 「ほめるくみとめる」の指導 自制心・「時間の使い方」について指導 授業はじめの「見通し」の提示 「自分は嫌じゃなくても、友達は嫌なこともあるかもしれない」のSST 自己肯定感・「よいところ・満足」児童会活動の活性化 ※児童会活動や地域行事、出前授業などで、他者と関わり感情や行動をコントロールする場面を経験させ、自分の良さ(自己肯定感)に気づく経験を積み重ねさせる。 善悪・道徳の授業、いじめ防止授業の毎学期の実施 生活委員会によるルールの啓蒙 	<p>職員による成果と課題、指標の結果</p> <p>R7鈴鹿市の非認知能力アンケート(4・5・6年生に実施)の否定的回答割合の結果より</p> <table border="1"> <tr> <td>【やりぬく力】 9.09%</td> <td>【自制心】 9.09%</td> <td>【自己肯定感】▲11.11%</td> <td>【社会性】 0.00%</td> </tr> <tr> <td>頑張り屋 26.2</td> <td>誘惑▲ 35.3</td> <td>自分に満足▲ 27.2</td> <td>助け合い 6.7</td> </tr> <tr> <td>やりとげる 27.2</td> <td>計画 29.2</td> <td>自分を大切に 15.1</td> <td>善悪▲ 10.8</td> </tr> <tr> <td>あきらめない 24.2</td> <td>がまん 12.1</td> <td>良いところ 16.1</td> <td>ルール 7.5</td> </tr> <tr> <td>自分の役割 11.1</td> <td>方法 22.2</td> <td>価値がある 19.1</td> <td>助ける 6.7</td> </tr> </table> <p>① 自己肯定感と社会性、やり抜く力、自制心の育成 【研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童会を中心に「非認知能力」の向上につながる児童集会を年2回(5月・11月)取り組んだ。 自己肯定感の向上や社会性を高めるために、クラスへの帰属意識を高める発表や異学年交流によりクラスや学校に対して安心感を持てるように取り組んだ。 非認知能力アンケートの「自分にはいいところがある。」の「あてはまる」の回答が+10ポイント、「わたしは人と同じくらい価値がある。」の「あてはまる」の回答が+13ポイント増えていることから、「自己肯定感」の向上を感じる児童が増えていることがわかる。 ▲学校独自で1学期と2学期に「非認知能力アンケート」を2回行った結果、1回目より「私は、始めたことは、途中で投げ出さず、最後までやりとげる。」の質問の「あてはまる」が-15ポイント、「苦しいことや困ったことがあっても、あきらめない。」の質問の「あてはまる」が-19ポイントとであった。「やりぬく力」について大きく低下がみられた。 ▲相手を思いやるコミュニケーションがとれるように「自分がされて嫌なことは人にしない」の指導から「好きなことが違うように嫌だと思うことも違うことを学ぶ機会」の設定まではできなかった。 	【やりぬく力】 9.09%	【自制心】 9.09%	【自己肯定感】▲11.11%	【社会性】 0.00%	頑張り屋 26.2	誘惑▲ 35.3	自分に満足▲ 27.2	助け合い 6.7	やりとげる 27.2	計画 29.2	自分を大切に 15.1	善悪▲ 10.8	あきらめない 24.2	がまん 12.1	良いところ 16.1	ルール 7.5	自分の役割 11.1	方法 22.2	価値がある 19.1	助ける 6.7	<p>学校関係者による評価と今後の改善点</p> <p>① 自己肯定感と社会性、やり抜く力、自制心の育成 【研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> 互いの良さを認め合う機会を大切に、自分にも良いところがあると思える体験を重ねることはとてもよい取組だと思う。 友だちの良いところを見つけやポジティブカードの取組は良い活動である。自分自身の良いところを他人から言われる方が自信にもつながる。 難しいと思うが、地道な活動が必要である。 友だちのよさをを見つけ合う取組の中で、自分を認めてもらえるうれしさを感じ、自己肯定感、自信につなげていきたい。
	【やりぬく力】 9.09%	【自制心】 9.09%	【自己肯定感】▲11.11%	【社会性】 0.00%																			
	頑張り屋 26.2	誘惑▲ 35.3	自分に満足▲ 27.2	助け合い 6.7																			
やりとげる 27.2	計画 29.2	自分を大切に 15.1	善悪▲ 10.8																				
あきらめない 24.2	がまん 12.1	良いところ 16.1	ルール 7.5																				
自分の役割 11.1	方法 22.2	価値がある 19.1	助ける 6.7																				
<p><指標></p> <p>【自己肯定感】を高めるための研修会を年間2回実施</p> <p>【児童アンケート】「自分にはよいところがあると思いますか」 R6・83%→ 90%以上</p> <p>【市アンケート】「私は人と同じくらい価値のある人間である」否定的 R6・21.7%</p> <p>【市アンケート】「最後までやり遂げる」否定的 R6・29.2%</p> <p>【市アンケート】「誘惑に負けない」否定的 R6・36.7%</p>	<p><指標></p> <p>【自己肯定感】を高めるための研修会を年間2回実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 【児童アンケート】「自分にはよいところがあると思いますか」 ▲ 86 % 【市アンケート】「私は人と同じくらい価値のある人間である」否定的 ↓ 19 % ※自己肯定感 【市アンケート】「最後までやり遂げる」否定的 ↓ 27 % ※やりぬく力 【市アンケート】「誘惑に負けない」否定的 ↓ 35 % ※自制心 	<p>①【今後の改善点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己肯定感が高まるように、児童会企画の取組を継続する。また、職員も率先してあいさつを行うことで意識づけを行っていく。 非認知能力の4つの視点をもとに、学級活動などで、児童自身が「めあて」を設定するようにして、「やりぬく力」と「自制心」を育成していく。 																					
<p>昨年度末の今後の改善点案</p> <ul style="list-style-type: none"> 日頃から校内環境整備に気を配り、毎日の清掃を児童と共に職員も取り組む。 校舎内、校庭の環境整備を継続的に行っていく。 <p>② 整理整頓・清掃の行き届いた誰にとっても過ごしやすい環境づくり【生指】</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎日の掃除の時間の活動を見届け、指導する。 校内の不要なものを片付ける。草刈りなどを定期的実施し、職員室から運動場の様子が見届けられるようにする。 	<p>② 整理整頓・清掃の行き届いた誰にとっても過ごしやすい環境づくり【生指】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童とともに除草作業を行い、環境整備に努めた。 ▲ 毎日の清掃は、児童数減少もあり、手の行き届かないところが目立った。 <p>昨年度の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> 奉仕作業の時期と学校行事の時期を調整する。調整のための話し合いを行った。 日頃の清掃活動が徹底できないところがあった。 	<p>② 整理整頓・清掃の行き届いた誰にとっても過ごしやすい環境づくり【生指】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日頃から校内環境整備に気を配り、毎日の清掃を児童と共に職員も取り組む。 校舎内、校庭の環境整備を継続的に行っていく。 																					
生徒指導	<p>R6年度末の改善点案</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後も日常的に言葉遣いを含めた自分の行動を振り返らせていく。 <p>③ いじめ防止の取組【生指】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「いじめ防止基本方針」の策定・確認と見直し いじめや差別、仲間づくりに関わる授業に取り組む。 「いじめアンケート」の学期1回の実施と積極的認知 	<p>③ いじめ防止の取組【生指】</p> <ul style="list-style-type: none"> 弁護士による「いじめ防止」の出前授業を実施。 児童は真剣に聞き、いじめを許さない気持ちをもつことが大切だと確認することができた。 毎学期に1回「いじめアンケート」を行って校内いじめ対策委員会を開き、積極的に認知をし、情報共有をすることができた。また、職員全体で見守りの意識をもつことができた。 ○ピンクチャット運動に4月・11月に取り組んだ。 ▲ 乱暴な言動や人の気持ちを考えず自分の意思を押し付けてしまうなどのトラブルは続いた。今後も言動や相手の気持ちを考えた行動への指導を継続する。 	<p>③ いじめ防止の取組【生指】</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめや差別など、具体的な場面を通して人の気持ちや言葉の使い方など知らせていってほしい。 仲間づくり、お互いに助け合える場を設けることが必要である。 表面化してこない、陰湿ないじめの発見が難しい。いじめに苦しむ子を一人でも減らせていってほしい。 																				
	<p><指標></p> <p>【児童アンケート】「学校であった出来事を家で話していますか」 R6・87% → 90%以上</p>	<p><指標></p> <p>【児童アンケート】「学校であったことを家で話していますか」 ▲ 86.2 %</p>	<p>③【今後の改善点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉遣いなど場に応じた行動を日常的に振り返る時間を各クラスで確保する。 児童の様子について、日頃から注意深く観察することを心がけ、職員間で気づいたことを共有していく。 																				
地域連携	<p>保護者・地域と連携し、期待と信頼に応える学校づくり</p> <p>昨年度末の今後の改善点案</p> <ul style="list-style-type: none"> 若松の文化等の地域学習は、地域の方と相談しながら取り組んでいく。 <p>① 若松の文化などに目をむけた地域学習に取り組み、郷土を愛する心を育成する</p> <ul style="list-style-type: none"> 若松地域づくり協議会との連携 5年生 田植え・稲刈り体験 1・2年 サツマイモの苗植えイモほり 3・5年 若松ふれあいフェスタ 4年 大黒屋光太夫顕彰会との連携 	<p>職員による成果と課題、指標の結果</p> <p>① 若松の文化などに目をむけた地域学習に取り組み、郷土を愛する心を育成する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 10月に行われる「ふれあいフェスタ若松」にて、5年生は光太夫太鼓を、3年生は合奏・合唱を発表させて頂いた。 ○ 4年生は「光太夫や地域の歴史を学ぶ」として、地域の皆さんに指導していただき、総合学習の時間に地域巡りの学習に取り組むことができた。 ○ 地域の皆様のご協力により、5年生は米作り、1・2年生はサツマイモ作り体験をすることができた。 <p>昨年度の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> どの学年も、地域行事に積極的に参加できた。 	<p>学校関係者による評価と今後の改善点</p> <p>① 若松の文化などに目をむけた地域学習に取り組み、郷土を愛する心を育成する</p> <ul style="list-style-type: none"> 若松の文化等の地域学習は、今後も地域と連携しながら取り組んでいきたい。 5年生になったら光太夫太鼓を引き継ぐことを子どもたちは楽しみにしている。 地域との連携は今後とも継続し、積極的に活用していいと思う。 地域の方々との交流機会を深めていってほしい。 学校(児童)と地域の連携事業は、年々強まり、良好の関係にあるが、地域からの側面支援では課題がある。わたしの町内では見守りボランティアを確保するのが難しい。改めて、学校・地域組織(地域づくり協議会、自治会、PTA)で見守り奉仕のあり方、体制、支援策等を検討いただければ幸い。 見守り場所、人数、曜日等を含めて「児童だけではなく高齢者も含めた町民の交通事故のない町づくり」のあり方を検討することも必要。(ながら運動・散歩しながら、買い物しながらの途中で～声かけ、挨拶をするなど) 非常に大事な取組ではあるが、地域主導ではなく、あくまでも学校(担任)が主導で行うべきである。 																				
	<p><指標></p> <p>【児童アンケート】「地域の行事に参加していますか」 R6・92%→ 90%以上</p>	<p><指標></p> <p>【児童アンケート】「地域の行事に参加していますか」 91 %</p>	<p>①【今後の改善点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 若松の文化等の地域学習に地域の方と相談しながら取り組む。 地域学習の取組が、地域主導となっていないか見直し、ねらいや学習内容を地域の方に相談しながら取り組んでいく。 																				
	<p>② 学校自己評価と共に保護者・児童アンケート・学校関係者評価を実施し、学校改善につなげる。(1回/年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会を中心に、子どもたちが安心・安全に過ごせるための環境整備を地域と進める <p>③ 学校運営協議会(年6回)にて、学校の現状や取組を伝え、地域との双方向の交流を推進する。</p>	<p>② 学校自己評価と共に保護者・児童アンケート・学校関係者評価を実施し、学校改善につなげる。(1回/年)</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケート結果の分析をもとに、こどもの実態について話し合うことができた。 ▲ 子どもたちが安心・安全に過ごせるための環境整備を進める。(ギャラリーの整備、地域との合同避難訓練など) <p>③ 学校運営協議会(年6回)にて、学校の現状や取組を伝え、地域との双方向の交流を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校行事と地域行事との関係について、話し合う場を持っていた。 ○ 環境整備として、運動場の草刈りなどに地域の方に取り組んで頂いた。 ▲ 児童数減少に伴うPTA・職員数の減少に備えたメンテナンスフリーな環境整備の実現 	<p>② 学校自己評価と共に保護者・児童アンケート・学校関係者評価を実施し、学校改善につなげる。(1回/年)</p> <p>③ 学校運営協議会(年6回)にて、学校の現状や取組を伝え、地域との双方向の交流を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業参観で子ども達の姿を見せてもらい、その後の話し合いで、先生方の思いもよくわかり、学ぶことが多くあった。 運営協議会で学校の現状を共有し、協力できるところを協力していきたい。 																				
	<p>④ 学校・学年だよりの発行、ホームページの更新を継続的に行い、積極的な情報発信に努める。(学校だより2回/月)</p>	<p>④ 学校・学年だよりの発行、ホームページの更新を継続的に行い、積極的な情報発信に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 2学期末時点で「学校だより」を34号発行。 ▲ タイムリーな発信や行事などのねらいについての発信ができないことが多かった。 	<p>④ 学校・学年だよりの発行、ホームページの更新を継続的に行い、積極的な情報発信に努める。(学校だより2回/月)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校の様子をまめに伝えていただき、ありがたいが、くれぐれも負担にならない程度にお願いしたい。 																				
	<p>⑤ ボランティア等の地域人材を発掘し、本校にとって効果的かつ継続可能な活動について検討を進める。</p>	<p>⑤ ボランティア等の地域人材を発掘し本校にとって効果的かつ継続可能な活動について検討を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 読み聞かせボランティアさん、図書館ボランティアさん、学習支援ボランティアさんなどで新しい方に参加していただき、活動機会が増えた。 	<p>⑤ ボランティア等の地域人材を発掘し、本校にとって効果的かつ継続可能な活動について検討を進める。</p>																				
	<p>⑥ 千代崎中校区、大木中校区の学校園と連携した教育活動を進める。</p>	<p>⑥ 千代崎中校区、大木中校区の学校園と連携した教育活動を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▲ 様子を交流できるのはよいが、中学校2校との交流・連携は時間的に難しい。 	<p>②③④⑤【今後の改善点】</p> <ul style="list-style-type: none"> いろいろな機会を通じて、ボランティア募集を呼びかけていく。職員にもボランティアの活用をうながし、よりきめ細かい学習指導・学習環境整備を進めていく。 引き続き、学校だより、学級通信では、行事の結果だけでなく方針や考えなどを意識して発信していく。 																				
学校における働き方改革	<p>働き方改革の推進</p> <p>昨年度末の今後の改善点案</p> <ul style="list-style-type: none"> 会議の内容を協議と連絡に分けて、かかる時間を短縮する。 chromebookの持ち帰りやスクールサポートスタッフの業務などにより、学校での平均時間外労働時間は25時間以下だが平日の時間外労働時間は増加傾向である。 <p>① 総労働時間縮減に取り組み、健康でやりがいのある職場づくりをめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> 第2、4水曜日を定時退校日として教職員の勤務時間削減を目指す。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人当たり月平均時間外労働時間 25時間以下 月45時間を超える時間外労働者の延べ人数 12名以下 月80時間を超える時間外労働者の延べ人数 0名以下 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 定時退校日を月2日実施し、設定した日の定時に退校できる職員割合80%をめざす 放課後開催の会議の60分以内終了の割合の80%をめざす 	<p>職員による成果と課題、指標の結果</p> <p>① 総労働時間縮減に取り組み、健康でやりがいのある職場づくりをめざす。</p> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人当たり月平均時間外労働時間 25時間以下 ○ 17.8 時間 月45時間を超える時間外労働者の延べ人数 12名以下 ○ 7 名 月80時間を超える時間外労働者の延べ人数 0名以下 ○ 0 名 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 定時退校日に退校できた職員の割合 80%以上 ▲ 79.2% 60分以内に終了した放課後開催の会議の割合 60%以上 ▲ 10.0% ※上記会議は職員会議のみを対象としているが、そのほか放課後に行う校内研修会、三部会については、多くが60分以内に終了している。 <p>昨年度の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間行事予定を適時、見直していくことで業務の平準化を図り、特定の職員に業務が集中しないように引き続き取り組む。 	<p>学校関係者による評価と今後の改善点</p> <p>① 総労働時間縮減に取り組み、健康でやりがいのある職場づくりをめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「学校だより」は何を大切にしたいのかがよくわかり、子ども達の姿も伝わるので、読むの楽しみにしている。 先生の労働時間短縮について、働き方改革が進む中、この種の取組の過渡期におこる現象は、授業準備等、自宅への「持ち帰り仕事」である。このことがおこらないように周知が必要。 一般教職員の労働時間削減はもちろんであるが、管理職の方が率先して縮減できるよう努めてください。 <p>①【今後の改善点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 業務の効率化、標準化を図り、平準化を進める。 年間行事予定や業務内容を適宜見直し、適切な精選を図る。 																				